



「初雪」

1940年ころ、絹本彩色  
52.7cm×61.7cm

上村松園 (1875~1949年)

「私の美人画は、単にきれいな女の人を写実的に描くのではなく、写実は写実で重んじながらも、女性の美に対する理想やあこがれを描き出したい」

上村松園はおよそ60年に及ぶ画業を通して、気品あふれる美人画を追求し続けた女性画家です。

1940年ごろに制作された本作では、松園が好んで描き続けた、江戸後期から明治期の京都の女性が題材となっており、画業の口熟期に当たるこの時期、松園は自身が生

《名画の扉》

大川美術館コレクション展から

(佐藤)